



かしわの

No 495 (2月号)
令和4年 1月31日
調布市立柏野小学校
校長 浅野 正臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho> mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp

面倒くさい

副校長 八木橋小百合

私の娘が中学生の頃の口癖は「うざい、だるい、面倒くさい」でした。そして、機嫌が悪くなると黙ることが多く、自分の感情を自分の言葉で説明することが苦手でした。

柏野小学校で子どもの話を聞いていると同じようなケースがあります。トラブル後のクールダウンをする子どもとの会話の中で、私が「どうしたの?」と聞くと「わかんない」とか「面倒くさい」とか「うざい」という言葉だけで話が續かないことがあります。

どうして、子ども達との対話が續かないのでしょうか。これらの言葉は、「嫌」だという気持ちを表す代表的な言葉です。子どもの中では、「嫌」という言葉の中にいろいろな気持ちが混ざっていて、子ども自身は何が「嫌」なのかも分からなくなっている状態です。だから、ただ「わかんない、面倒くさい、うざい」という言葉で片付けてしまうのでしょう。

でも、周りの大人から、何が嫌なのか、何が面倒くさいのか、何がうざいのかを詳しく聞いてもらうことで「○○が嫌だったから、最後までできなかった」とか「○○の言葉が嫌だったから大きな声を出しちゃった」等、自分の気持ちに気付くことができるのです。また、そのやり取りの中で、子どものつまづきや心の傷つきに大人が気付くことができると、適切な支援をしたり気持ちを汲んだりすることもできます。

なかなか私や周りの人との対話や気持ちの交流がなかなか難しかった娘も、根気強く向

き合う時間をつくることで、今では、別人のように幼少期時代のことを始め、エピソードや気持ちを詳しく話してくれるようになりました。私も、心が通う対話ができるようになって、娘と過ごす時間が楽しくなりました。

話は変わりますが、子どものやる気スイッチを入れる「魔法の言葉」をご紹介します。それは、「一つだけやってみよう」という言葉をかけるのです。

例えば「ペットボトルを1個片づけてちょうだい」と具体的に一つお願いをします。すると、一個だけ片づけると子どもは楽しくなってくるので、どんどん次も片づけるようになります。「やる気スイッチ」を入れるには、「具体的に」「一つだけ指示を出す」ことがポイントです。勉強も取り掛かれないでいるときは「まずは1問だけやってみよう」と声をかけ、簡単な問題から取り組ませるといいかもしれません。

明日から2月です。暦の上では、節分や立春という春の言葉が見られますが、寒さはまだまだ厳しいです。また、コロナ禍で、思い通りにいかないこともあり、イライラしたりやる気が出なかったりすることもあるかもしれません。

まずは、できることから、一つだけでもいいので、一緒に前へ進んでみましょう。